

野田新内閣人事についての会頭コメント

先の党役員人事は党内融和を最優先に人選されたようだが、「3党合意」「マニフェスト」など、党内対立再燃の火種を抱えた「両刃の剣」型といえる。党内を纏めるのは至難の業とは思いますが、チームワークで愚直に重要課題に取り組み、真の挙党体制を目指してもらいたい。

今回の新内閣は国難を克服するという意味で、「課題解決型待ったなし内閣」といえる。

実績と党内バランスを踏まえた実務重視の無難な閣僚人事とは思いますが、実行力は未知数といわざるを得ない。野田新首相にはリーダーシップを発揮し、震災復興と原発事故の収束、経済成長と財政再建の実現などの優先すべき重要課題に対しては、「スピード感」を持って解決に向けて取り組むと同時に、党内・閣内は勿論、野党との修正協議による合意形成には粘り強く努力願いたい。新首相と新内閣の結果次第で「親民主」か「脱民主」か、次回の総選挙で有権者の裁定を仰ぐことになるだろう。

平成23年9月2日
京都商工会議所
会頭 立石 義雄